

## #ふれしゃか hook

## 『ふれる社会学』（北樹出版）5章「観光にふれる」 事前学習用ワークシート

2020/04/20

作成者：八木寛之

1. (外出を控えている人も多いと思いますが…) いま、あなたが旅行や観光地へ行く計画を練るとしたら、①どのような事を重視して目的地や行程を決めますか（たとえば、「有名な観光スポットがある」「好きな漫画の舞台になった」「特別な体験ができる」など）。②そうした情報は主にどこから得られたものですか（たとえば、旅行雑誌や旅番組、SNS、友人・友人からの口コミなど）。できるだけ具体的に書き出してみてください。

2. 自分が住んでいる街や、生まれ育った街の観光に関する広報（自治体のホームページやSNSなど）や観光政策を調べてみて、そこでどのようなもの（こと）がアピールされているのか（写真や絵などのビジュアル的なイメージやキャッチコピーなども含めて）、挙げてみてください。

3. 「ディープスポット」や「ディープな○○」「ディープ○○」（○○には地名や場所の名前が入ります。たとえば「ディープな大阪」「ディープな下町」など）として紹介されている場所を調べてみて、それらに共通するイメージや言説を考えてみてください。

## #ふれしゃか hook

## 『ふれる社会学』(北樹出版) 5章「観光にふれる」 事後学習用ワークシート

2020/04/20

作成者：八木寛之

1. 本章の前半では、地域イメージ(観光イメージ)の形成とメディアの関係について指摘しました。下記リンク先の記事では、1990年代以降、タイトルに並べられているような「散歩番組」(「街歩き系番組」とも言えます)が増えていった理由として、社会が「当たり前」の日常を求めなくなったからではないかと書かれています。あなたはどのように思いますか。リンク先の文章や本章の内容をふまえたうえで、それ以外の理由や社会的背景なども想像しながら考えてみてください。

- 「アド街、モヤさま、家族に乾杯……なぜ「散歩番組」は大人気になったのか? 外出自粛のいま考える」(太田省一、2020年4月5日)

<https://urbanlife.tokyo/post/32491/>

2. 本章の後半では、「ディープスポット」や「ディープな○○」として紹介されている場所や地域が、観光地になりうることを示しました。そこにどのような「観光のまなざし」が付与されているのでしょうか。また、そうした場所が観光地になることで、どのような影響があると思いますか。「観光客」と「地域住民」両方の立場になったつもりで考えてみてください。

3. 本章の後半で述べた「観光まちづくりが抱えるジレンマ」に関連して、大勢の観光客が訪れることで地域生活に多大な影響をおよぼす「オーバーツーリズム」が、近年世界各地で社会問題となりました。オーバーツーリズムの事例を調べてみて、そこでは「誰が（何が）、どのように問題にしているのか」、あるいは「誰が（何が）、どのように問題化されているのか」、本章の内容も参考にしながら考えてみましょう。

4. 「オーバーツーリズム」が社会問題化してきた一方で、2020年の現在、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、各地の観光地が大きな打撃を受けるなど状況が一変してしまいました。こうした両極端なようにも見える状況を短期間に経験している私たちは、今後、観光まちづくりについてどのように考えていけばよいのでしょうか。とくに、経済的な影響「以外の」ことにも想像を膨らませて考えてみましょう。

- 新型コロナ 緊急事態宣言 「観光公害」一転窮地に 外出自粛で各地に大打撃 / 京都（毎日新聞 2020年4月19日）

<https://mainichi.jp/articles/20200419/ddl/k26/040/208000c> 2020年4月20日閲覧

（※新聞記事なのでリンクが切れるのが早いかもしれません…）